

水俣市観光振興計画

『でかくっか水俣』



令和5年3月

水俣市

水俣市観光振興計画 目次

第1章 はじめに

- 1 計画策定の背景と目的
- 2 計画の期間
- 3 持続可能な開発目標(SDGs)への社会的関心の高まり

第2章 現状と課題

- 1 本市の観光を取り巻く環境や社会情勢の変化
 - (1)人口減少社会の到来
 - (2)国内旅行の状況
 - (3)ウィズコロナ・アフターコロナ時代の旅のスタイル
- 2 本市における観光の現状と課題
 - (1)本市の観光入込客数(総数、宿泊客数)の推移
 - (2)観光資源の概要
 - (3)各種調査結果から分かる本市の観光ニーズ
 - (4)前計画の成果(進捗)と課題
 - (5)本市における観光の課題

第3章 水俣市観光振興計画

- 1 基本理念
- 2 本市がターゲットとする地域(商圈)等の属性
- 3 取組の方針と施策の方向性
 - (1)取組の方針
 - (2)施策の体系図
 - (3)施策と具体的な取組み
 - ① 方針1 戦略的な観光
 - ② 方針2 「学ぶ・留まる」を促す観光
 - ③ 方針3 リピートしたくなる観光

第4章 推進体制

- 1 計画の進め方
- 2 役割分担

第5章 数値目標

資 料 編

水俣市観光振興計画の取組一覧

第1章 はじめに

1 計画策定の背景と目的

水俣市では、“みんなが幸せを感じ 笑顔あふれる元気なまち 水俣”の実現に向けて、2019年(平成31年)3月に策定した「第6次水俣市総合計画」において、基本目標の1つに「地域に根差した強い産業基盤づくり」として、地場企業や農林水産業の振興とともに豊かな自然や温泉など、地域にある多彩な観光資源を磨き上げ、多くの人を呼び込むことで、にぎわいのあるまちを築いていくこととしています。

さらに、本市の強みを生かすために「外貨を稼ぐ水俣市」、「選ばれる水俣市」、「活力生まれる水俣市」を3つのビジョンとして掲げ、観光分野では特に、スポーツと観光の拠点であるエコパーク水俣を中心とした経済と地域の活性化を目指した取組を進めているところです。

一方、本市においては2010年(平成22年)3月に「湯の鶴観光振興計画」、2011年(平成23年)3月に「水俣市観光振興計画 湯の児育て」を策定し、取組を進めてきましたが、地域資源を生かした観光コンテンツ創出の取組など十分に成果を出せていないものもあります。

そのような中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により旅行者数が大きく減少し、観光関連産業は多大な影響を受けました。

そこで、本市においては、ポストコロナ・ウィズコロナ・アフターコロナに向けた人々の新たな価値観による観光行動の変容を踏まえ、官民が一体となって観光振興を推進するため、これまでの計画を1本化するとともに、「水俣の魅力を地域が誇り、高め合い、発信して、水俣に出かけたくなる人を何度も呼び込む観光」を観光施策の方針とした「水俣市観光振興計画」を策定しました。

2 計画の期間

計画の期間は、第6次水俣市総合計画(第2期基本計画)との整合性を図るため、2023年度(令和5年度)から2026年度(令和8年度)までの4年間とします。

3 持続可能な開発目標(SDGs)への社会的関心の高まり

国際連合は、平成27年(2015年)に「誰一人取り残さない」という理念のもと、自然環境や社会環境のあるべき姿を示した世界共通の目標として、「持続可能な開発目標(SDGs)」を採択しました。

我が国においても、国家戦略として「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針改定版」を策定し、その実施方針において、地方自治体に対してもSDGs達成に向けた取組の促進を求めており、SDGsは行政運営における重要な指針の一つになっています。

本市では、これまで取り組んできた環境に配慮した施策や取組を踏まえつつ、「経済」「社会」を加えた三側面の統合的取組により好循環を生み出し、未来にわたって豊かで活力ある地域社会を創造していこうとする提案内容が評価され、令和2年7月に「SDGs未来都市^{※1}」に選定されました。今後も「SDGs未来都市計画」に基づき、SDGsの達成に向けて取組を推進しています。

※1 地方創生SDGsの達成に向けて、優れたSDGsの取組の提案する地方自治体として内閣に選定された都市のこと。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



本観光振興計画についても、特に次のゴールに向けて各施策や取組を進めていきます。



第2章 現状と課題

1 本市の観光を取り巻く環境や社会情勢の変化

(1) 人口減少社会の到来

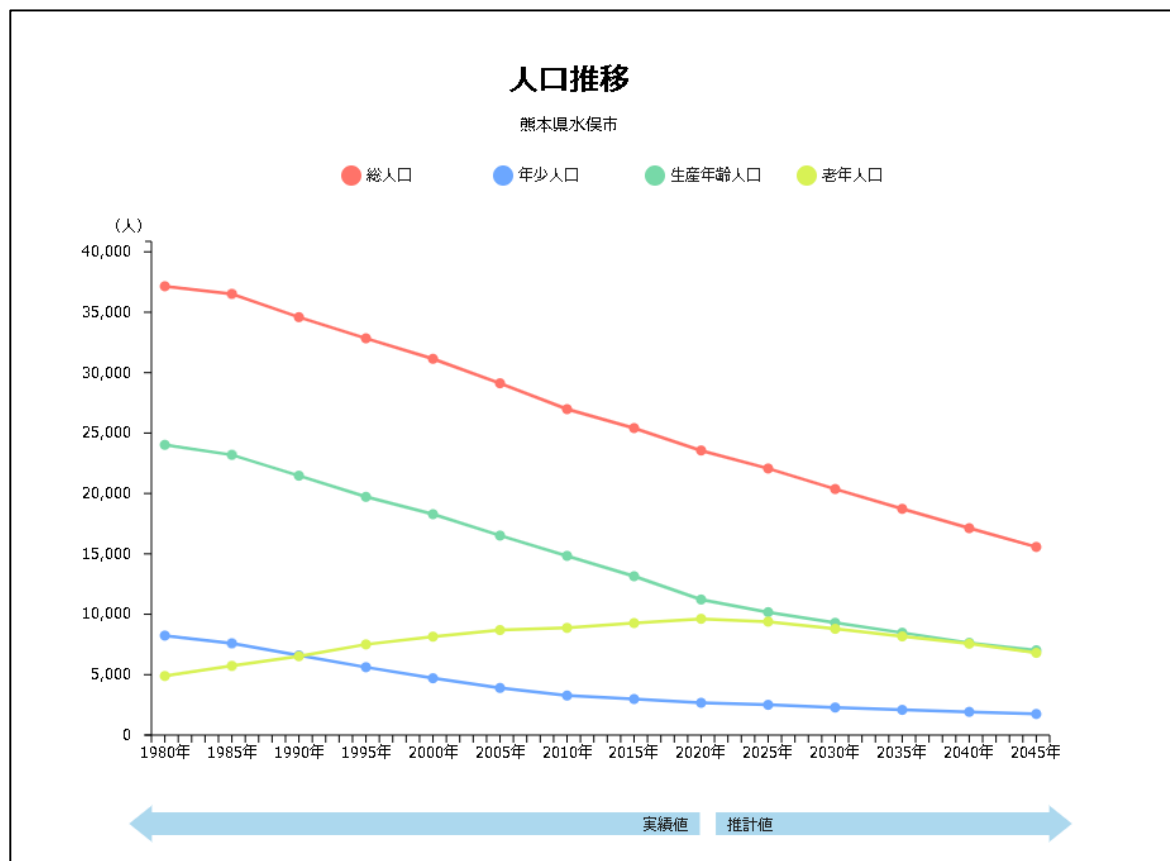
我が国の人口は、2008 年(平成 20 年)をピークに減少局面に入り、本市においても総人口は、22,802 人(2022 年(令和4年)9月現在)で、この 30 年の間に約 1.1 万人、平均して毎年約 400 人程度減少しており、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の推計によると、2030 年には 20,367 人にまで減少すると予想されています。また、本市では高齢化の進行が熊本県の平均と比較しても 10 年以上早いペースで進んでおり、社人研の推計値によれば、2040 年頃には、生産年齢人口と 65 歳以上の人口がほぼ同数という水準に達すると推測されています。

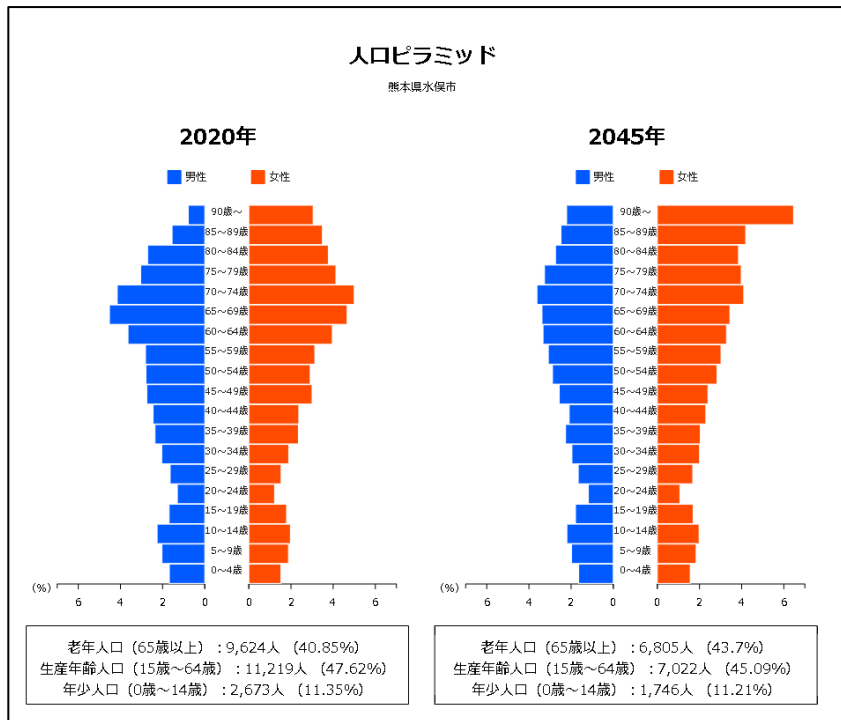
地域における人口減少、少子高齢化は、経済規模の縮小や生活水準の低下等、地域社会の持続可能性を確保する観点からも課題となっています。

このような中、観光産業は宿泊業や飲食等の観光関連事業者にとどまらず、農林水産業やその他のサービス業等裾野の広い産業であり、観光客の増加は高い経済効果が見込まれます。

加えて、旅行者の観光消費額に着目すると、定住人口1人当たりの年間消費額(127 万円)は、国内宿泊旅行者で 23 人分、さらに訪日外国人旅行者であれば8人分に相当するとされており※2、観光産業は地域経済を支える柱として大きく期待されています。

※2 観光庁試算(2019 年(令和元年))



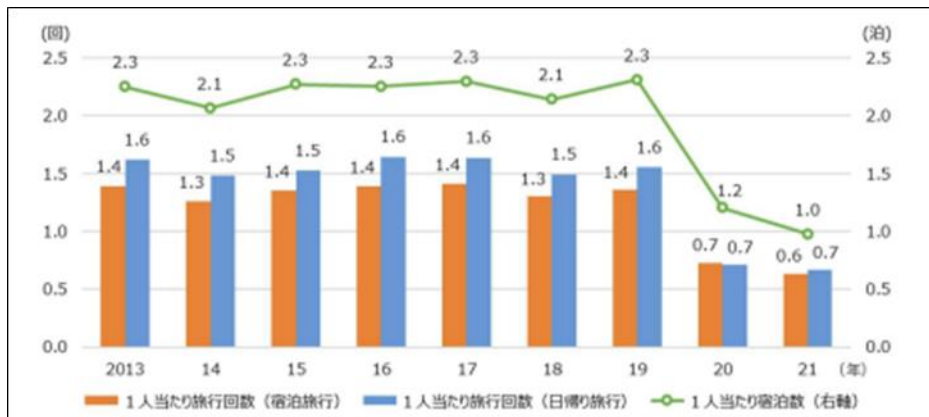


【出典】総務省「国勢調査」社人研「日本の地域別将来推計人口」

(2) 国内旅行の状況

2021年(令和3年)の日本人1人当たりの国内宿泊旅行の回数は0.6回、日帰り旅行回数は0.7回、1人当たり宿泊数は1.0泊と、前年をさらに下回りました。

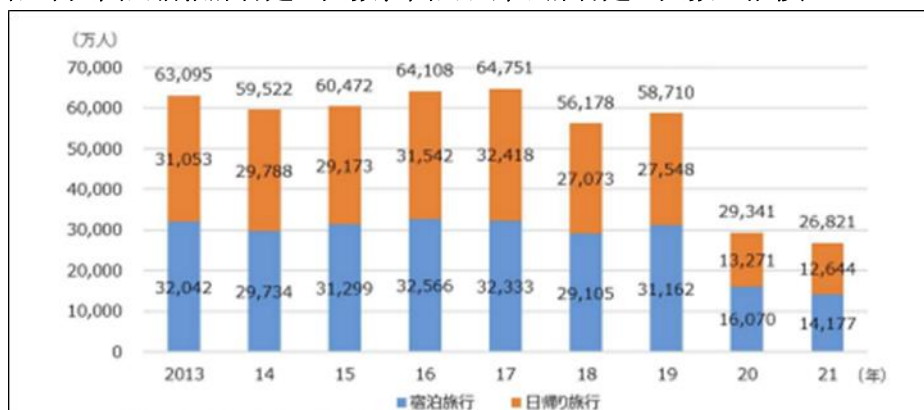
〈日本人一人当たり宿泊旅行、日帰り旅行の回数及び宿泊数の推移〉



【出典】観光庁「旅行・観光消費動向調査」

2021年(令和3年)の日本人の国内宿泊旅行者数は延べ1億4,177万人(前年比11.8%減、2019年(令和元年)比54.5%減)、国内日帰り旅行者数は延べ1億2,644万人(前年比4.7%減、2019年(令和元年)比54.1%減)と、宿泊旅行、日帰り旅行ともに減少しました。

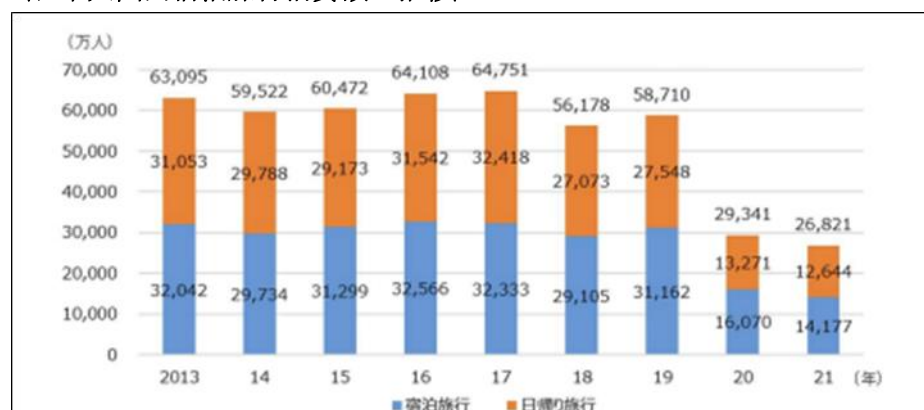
〈日本人国内宿泊旅行延べ人数、国内日帰り旅行延べ人数の推移〉



【出典】観光庁「旅行・観光消費動向調査」

2021 年(令和3年)の日本人国内旅行消費額は、9.2 兆円(前年比 7.9%減、2019 年(令和元年)比 58.1%減)となりました。このうち、宿泊旅行の国内旅行消費額は 7.0 兆円(前年比 10.0%減、2019 年(令和元年)比 59.2%減)、日帰り旅行の国内旅行消費額は 2.2 兆円(前年比 0.5%減、2019 年(令和元年)比 54.1%減)となりました。

〈日本人国内宿泊旅行消費額の推移〉



【出典】観光庁「旅行・観光消費動向調査」

熊本県内においても、2020 年(令和2年)については宿泊者数、観光消費額に加えて教育旅行の受入状況についても大きく減少しました。

〈2020 年（令和 2 年）熊本県内における観光入込客数の状況〉

<u>延べ宿泊客数</u>			
全 体：	4,731.5 千人	対前年増減率	-38.0 %
日本人：	4,591.1 千人	対前年増減率	-31.5 %
外国人：	140.4 千人	対前年増減率	-85.0 %
【出典】宿泊旅行統計調査（観光庁）			
<u>延べ入込客数</u>			
	33,052.8 千人	対前年増減率	-32.4 %
【出典】観光地点等入込客数調査（観光庁基準）より県推計			
<u>観光消費額</u>			
全 体：	1,774.9 億円	対前年増減率	-44.9 %
日本人：	1,727.7 億円	対前年増減率	-39.4 %
外国人：	47.3 億円	対前年増減率	-87.2 %
【出典】共通基準による観光入込客統計（観光庁）			
<u>教育旅行受入状況</u>			
団体数：	186 団体	対前年増減率	-52.1 %
宿泊客数：	18,444 人	対前年増減率	-50.7 %
(実数)			
【出典】熊本県教育旅行受入促進協議会報告資料			

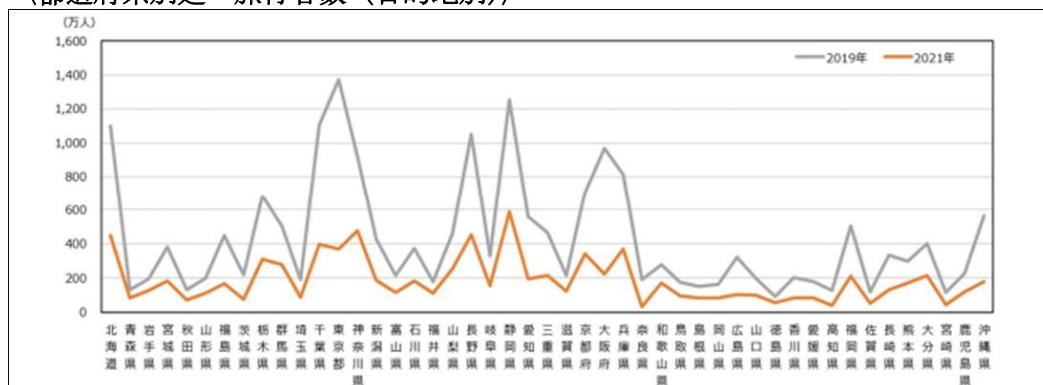
(3) ウィズコロナ・アフターコロナ時代の旅のスタイル

新型コロナウイルス感染症の影響拡大は、世界中の人々に生活形態や意識の変化をもたらし、「新しい生活様式（ニューノーマル）」として「密」の回避（ソーシャルディスタンスの確保）のためのテレワークや時差出勤に代表されるワークスタイルの変化のほか、EC サイトとともにデリバリー、テイクアウトの流行等、いわゆる巣ごもり需要を生み出しました。

感染症の影響下における観光行動も大きく変容し、マイクロツーリズムをはじめとする近隣への観光行動が盛んになりました。観光スポットにおいては感染防止対策が徹底され、旅行者側も「密」を避けるため、団体から少人数化や、アウトドア、郊外志向が高まる等の意識の変化も見られます。

また、観光庁「旅行・観光消費動向調査」によりますと、感染症の影響により 2021 年（令和 3 年）の延べ旅行者数は 2019 年（令和元年）比で全国的に減少している一方で、従来は旅行者の多かった主要観光地や人口密集地域である都市圏を避けるなど、地域ごとの旅行者の格差が減少傾向となっています。

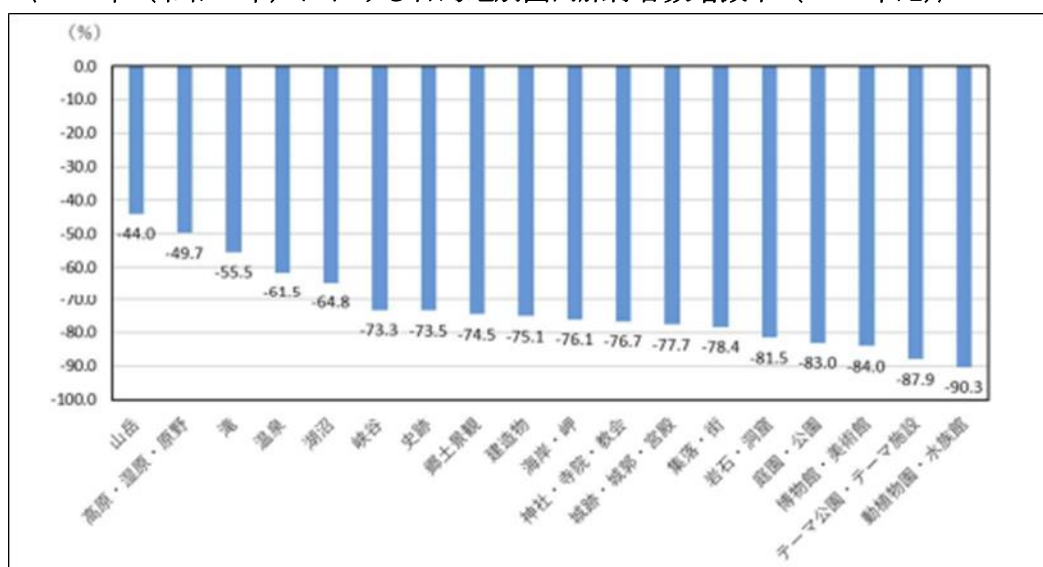
〈都道府県別延べ旅行者数（目的地別）〉



【出典】観光庁「旅行・観光消費動向調査」

2021 年(令和3年)の目的地別国内旅行者数について、対 2019 年(令和元年)増減率でみると、全般的な傾向として「山岳」、「高原・湿原・原野」、「滝」等の自然景観が総じて減少幅が小さくなっており、「密」の回避等の感染症対策への配慮に対する関心が反映されているものと考えられます。

〈2020 年（令和 2 年）における目的地別国内旅行者数増減率（2019 年比）〉



【出典】観光庁「令和 4 年版観光白書」

2 本市における観光の現状と課題

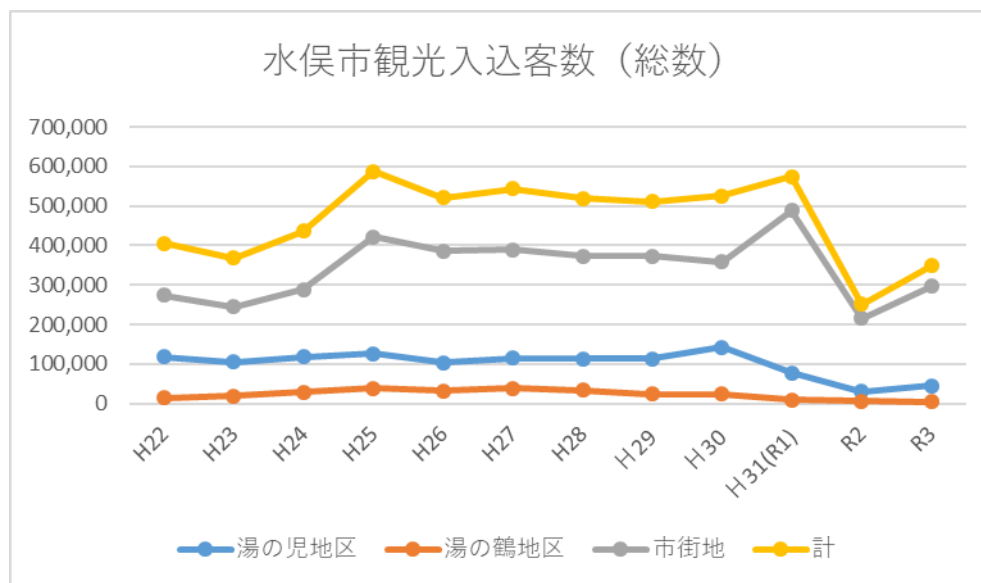
（1）本市の観光入込客数（総数、宿泊客数）の推移

本市の観光入込客数は、2013 年(平成 25 年)の約 58 万 8 千人をピークに、県内における鳥インフルエンザの発生や平成 28 年熊本地震、令和2年 7 月豪雨等の影響により減少に転じていましたが、2019 年(平成 31 年)に南九州西回り自動車道水俣インターチェンジが開通したことで、本市の入込客数総数は前年比約 10%増加しました。

しかしながら、2020 年(令和2年)1月から拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、広域間移動を伴う観光経済は大幅な縮小を余儀なくされ、本市における 2020 年(令

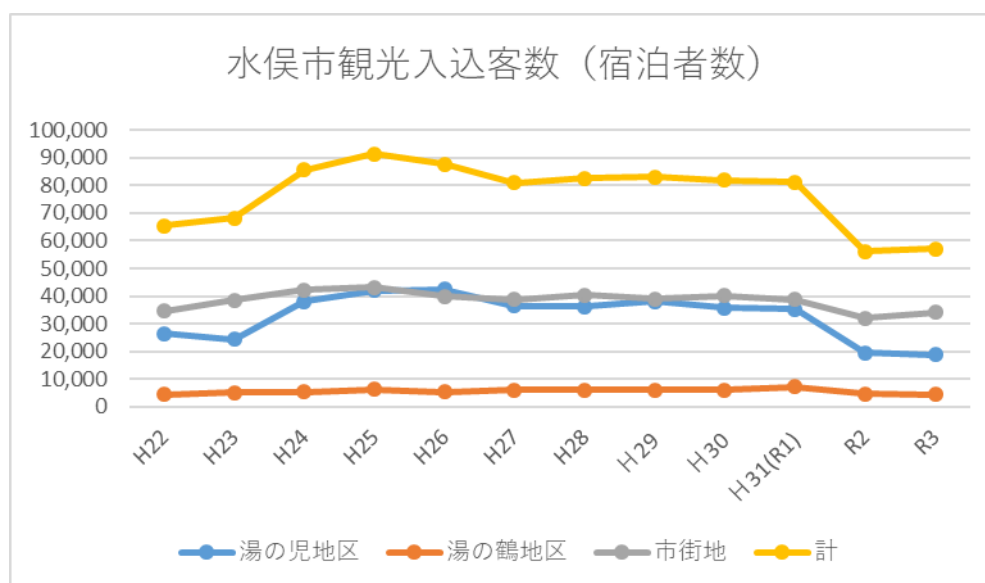
和2年)の観光入込客数は 25 万2千人まで落ち込みました。

〈水俣市観光入込客数の推移〉



また、本市の宿泊客数は、2013 年(平成 25 年)の約9万2千人をピークに、以降は約8万2千人で推移していますが、感染症の影響により 2020 年(令和2年)には約5万6千人まで落ち込みました。

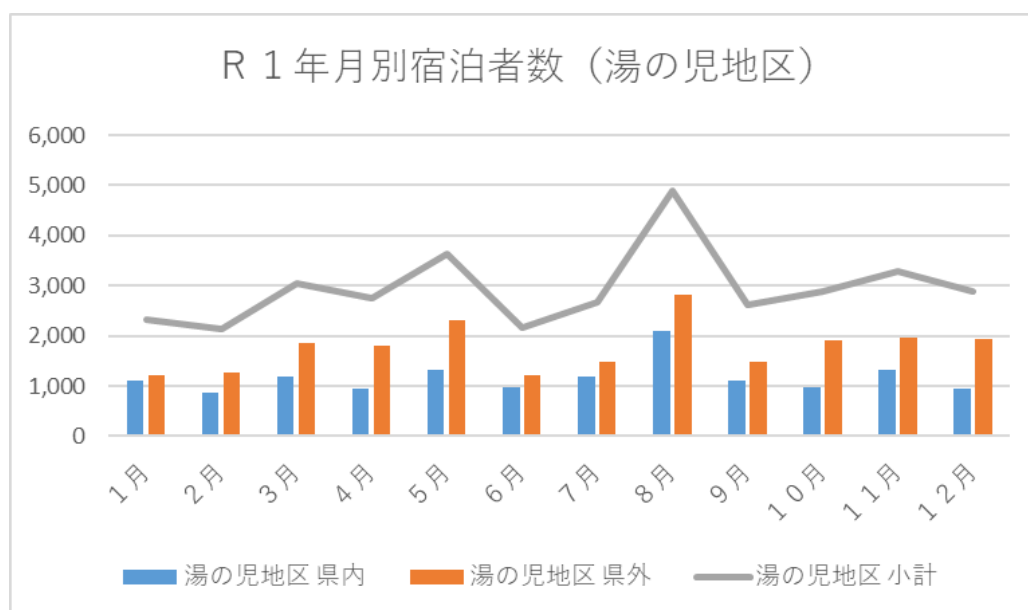
〈水俣市観光入込客数の推移（宿泊者数）〉



なお、感染症拡大前の 2019 年(令和元年)の月別の宿泊者数の推移を見てみると、湯の児地区、湯の鶴地区、市街地といった地域別に次のような特徴が見受けられます。

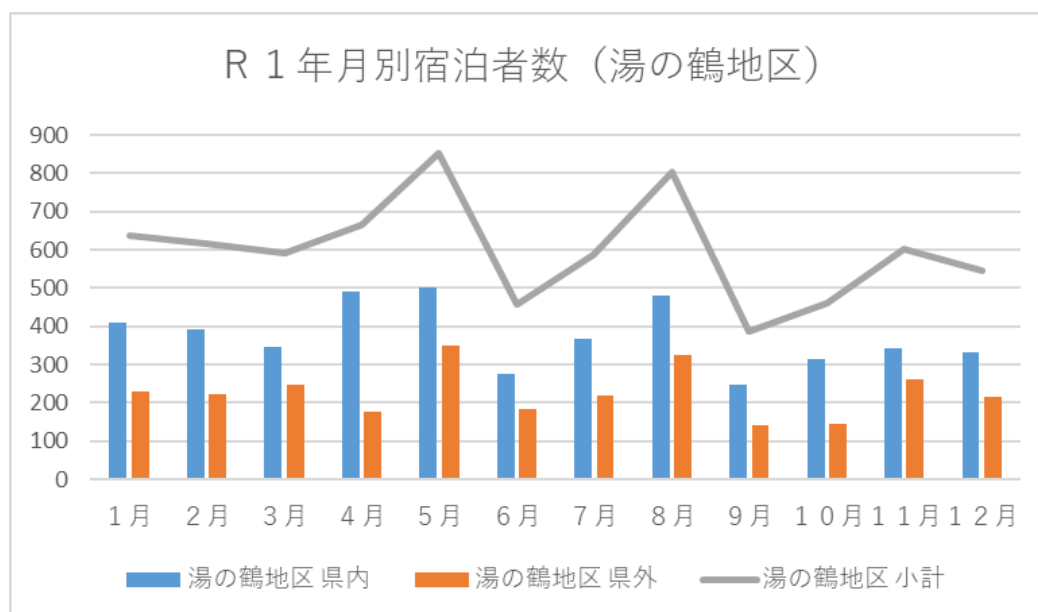
湯の児地区は、県内よりも県外の宿泊客数の割合が大きく、8月の数値が最も高い一方で、6月や1月、2月といった梅雨や冬季の時期に落ち込む傾向がみられます。

〈(2019 年) 令和元年 月別宿泊者数の推移 (湯の児地区)〉



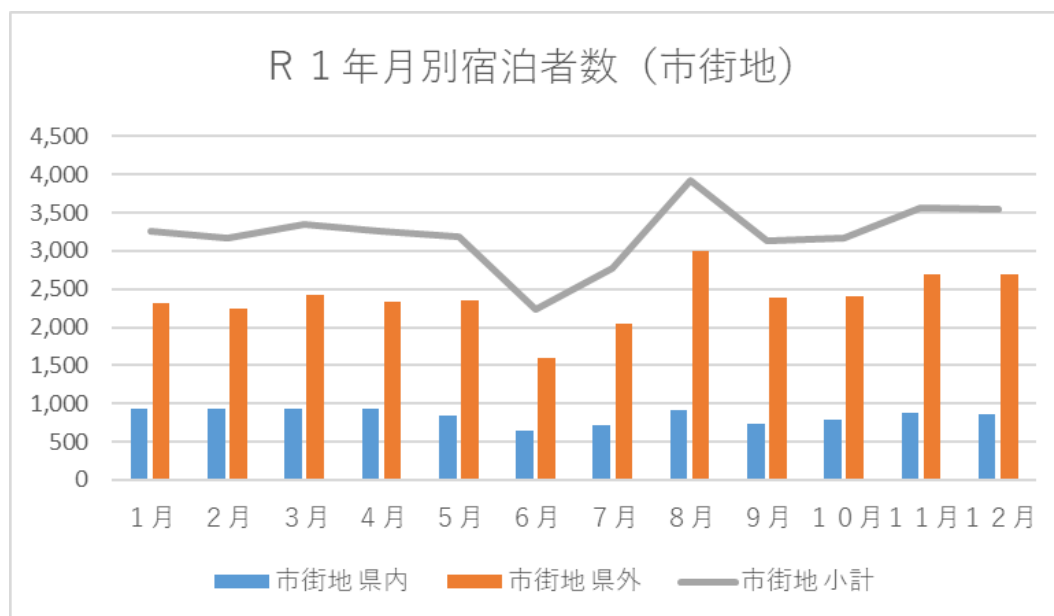
湯の鶴地区は、県外よりも県内の宿泊客数の割合が大きく、5月、8月の数値が高い一方で、6月や9月といった連休後の時期に落ち込む傾向が見られます。

〈(2019 年) 令和元年 月別宿泊者数の推移 (湯の鶴地区)〉



市街地は、県内よりも県外の宿泊客の割合が大きく、8月の数値が最も高くなっているものの、6月以外は年間を通して大きな落ち込みはありません。

〈(2019 年) 令和元年 月別宿泊者数の推移 (市街地)〉



(2) 主な観光資源

【エコパーク水俣】



環境と健康をテーマにした県下最大級の広域公園「エコパーク水俣」は、スポーツ施設や道の駅みなまたを有し、多くの人が訪れる拠点となっています。

敷地内には、バラ園や物産館「Shop&Cafe ミナマータ」、「みなまた木のおもちゃ館きらら」、「インフォメーションセンター」があります。



【湯の児温泉】



泉質は塩化物泉で海岸沿いには旅館が立ち並び、展望露天風呂など様々な温泉が楽しめる。春にはチェリーライン、夏には海水浴と多くの家族連れで賑わいます。穏やかで豊かな海で多様な生物に出会えるダイビングをはじめとするマリナクティビティも人気です。



【湯の鶴温泉】



山間にひっそりと静かに 4 軒の旅館と立ち寄り湯が川の兩岸に並んでいます。効能は、肌に柔らかで外傷や打ち身、筋肉痛、リウマチなどに効果があるとされており、日頃の喧騒から離れて静かな時間を楽しみたい、そんな人達に人気の隠れ家のような温泉です。



【寒川水源】



久木野地域にそびえる大関山の麓から湧き出す水源が寒川水源です。水源から引いた水に流し食べるそうめん流しが人気です。

【中尾山】



不知火海を一望する中尾山は、秋になると約 8 万本のコスモスが満開になります。

【マリナクティビティ】



明治の中期に長崎県から競り舟が伝来した歴史があり、本市のマリナクティビティも注目が集まっています。

【サラダ玉ねぎ、和紅茶、恋路カキ】



(3) 各種調査結果から分かる本市の観光ニーズ

本市における観光ニーズを把握するため、本市に宿泊した方に対して「みなまた観光応援券アンケート※3」を実施しましたこれらの結果等から分かる観光ニーズや旅行者の属性は次のとおりです。

- 水俣市を宿泊旅行先に選んだ理由は、「温泉」を選択した方が多く、次いで、「観光」、「仕事」、「グルメ」となっています。
- 年代は 60 代以上が最も多く、県内や福岡県、鹿児島県を発地として自家用車でのお来水が多くみられます。九州外からの旅行者も一定数見られます。

〈来水目的〉

来水目的	選択項目	観光	温泉	グルメ	ドライブ	気分転換	休養	仕事	スポーツ	ワーケーション・ブレイジャー	その他
	回答数	754	1097	414	90	406	413	630	112	20	391
	割合	17.4%	25.4%	9.6%	2.1%	9.4%	9.5%	14.6%	2.6%	0.5%	9.0%

〈年代〉

年代	選択項目	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代以上
	回答数	955	382	775	816	836	1913
	割合	16.8%	6.7%	13.7%	14.3%	14.7%	33.7%

〈発地〉

発地	選択項目	水俣市	熊本県（水俣市以外）	福岡県	鹿児島県	宮崎県	佐賀県	長崎県	大分県	九州外
	回答数	331	1132	370	276	85	32	67	40	392
	割合	12.1%	41.5%	13.6%	10.1%	3.1%	1.2%	2.5%	1.5%	14.4%

〈宿泊した宿を選んだ理由〉

ホテルを選んだ理由	選択項目	ホームページ	チラシ	知人の紹介	以前に利用した	宿泊施設からの紹介	その他
	回答数	709	28	495	1200	50	204
	割合	26.4%	1.0%	18.4%	44.7%	1.9%	7.6%

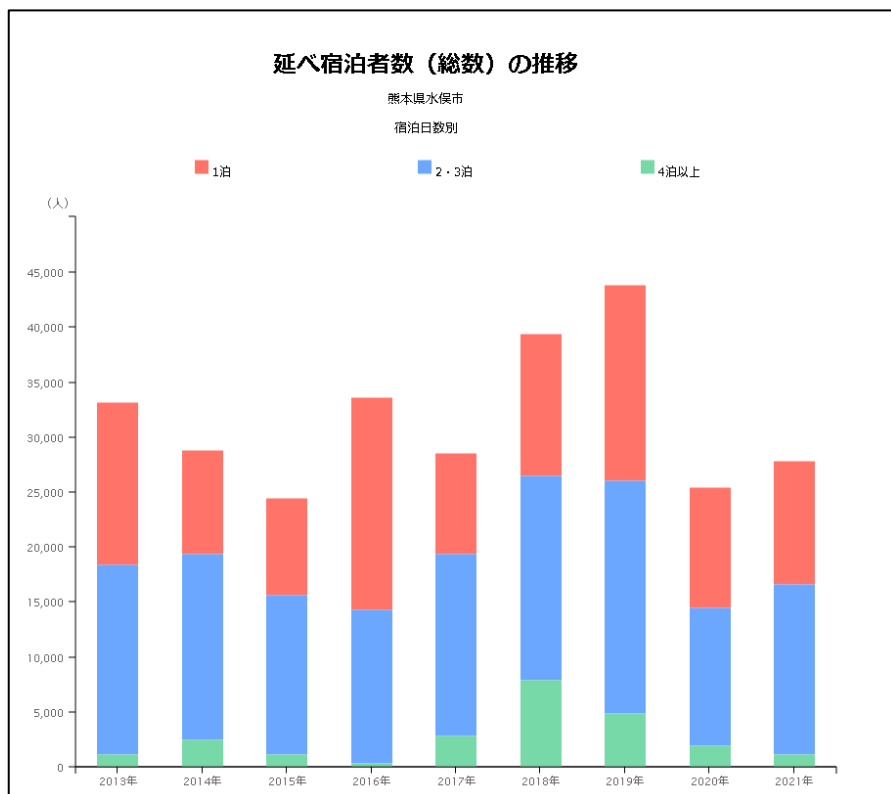
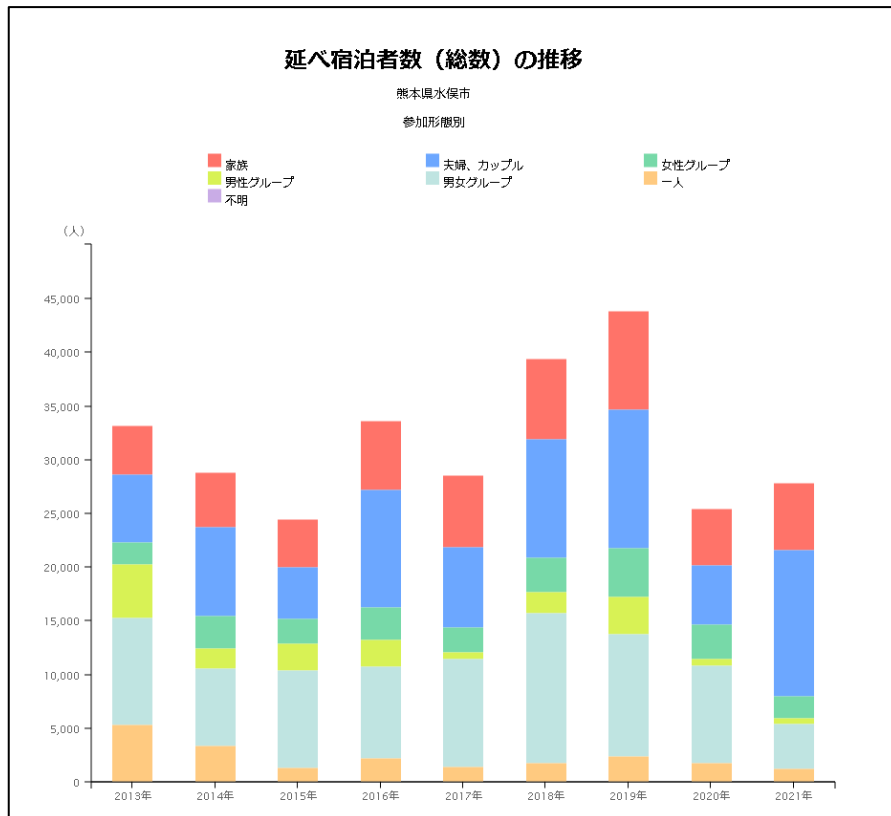
〈交通手段〉

交通手段	選択項目	自家用車	新幹線	在来線	バス	タクシー	飛行機	レンタカー	カーシェアリング	自転車	徒歩	その他
	回答数	2210	250	56	58	45	113	136	3	7	7	88
	割合	74.3%	8.4%	1.9%	2.0%	1.5%	3.8%	4.6%	0.1%	0.2%	0.2%	3.0%

※3 本市では、2020 年（令和 2 年）から新型コロナウイルス感染症の影響が大きい観光事業者支援の一環として、みなまた観光応援券事業を実施しています。市内に宿泊する方に当該応援券を活用していただくもので、活用に当たってはアンケート記入をお願いしています。

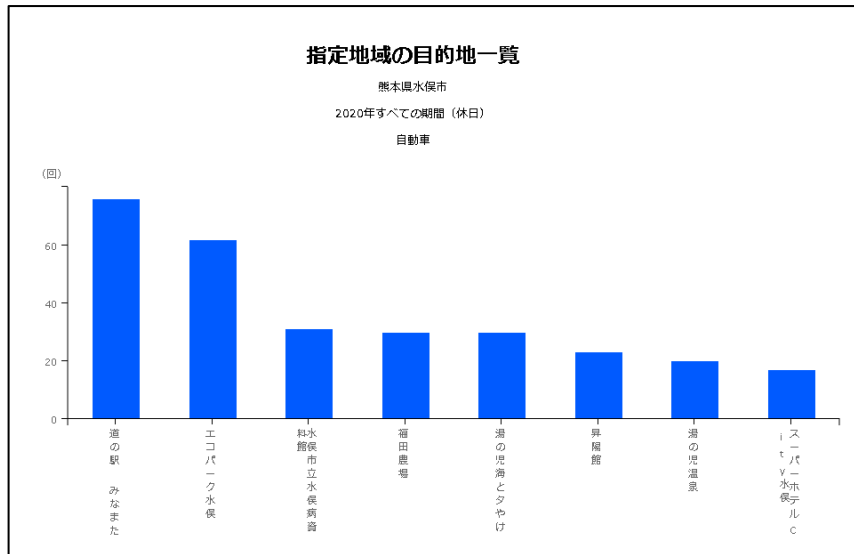
ここでは、市外居住者にも条件を拡大した 2022 年（令和 4 年）の事業によって収集したアンケート結果を採用しています。

- 本市における宿泊者の同伴者数などの参加形態別の延べ宿泊者数（総数）の推移をみると、夫婦やカップル、グループ、家族での形態の割合が大きく、また 2・3 泊以上の宿泊者が半数以上を占めています。



【出典】観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」

- 一方で、観光入込客全体の目的地（自動車利用）は次のとおりとなっており、道の駅みなまたやエコパーク水俣への誘客が非常に多いことがわかります。



【出典】株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

(4) 前計画の成果(進捗)と課題

本市の観光振興については、2010年(平成22年)3月に「湯の鶴観光振興計画」、2011年(平成23年)3月に「水俣市観光振興計画 湯の児育て」を策定し、取組を進めてきました。その成果と課題は以下のとおりです。

①「湯の鶴観光振興計画」の成果と課題

基本方針・取組み	成果・課題
①「里山のむら」らしい豊かな自然と一体となったまちなみの形成	○温泉保健センターや憩いの広場(足湯)の整備を完了し、地域住民の方々はもちろん観光客の誘客につながっている。 ○街並みの改善が必要である。
②まちあるきを促進させるための拠点空間の形成	○旧湯の鶴旅館を整備し、観光物産館として「鶴の屋」が営業を開始。県内外の観光客の観光の拠点となっている。 ○老朽化した旅館の解体工事を行い公園を整備したことで、地域活性化に寄与している。 ○湯出七滝をはじめとする地域資源の磨き上げと廃業・休業した温泉旅館の再生のための取組みが必要である。
③河川空間における親水性の向上や橋のデザインの改善	○ホテルマップを作成し観光客に展開した。 ○安全性を考慮した橋の改修が必要である。
④環境に配慮した取り組みや施策の推進	○サイクリストに対応できるよう、温泉保健センターにサイクルスタンドを設置した。 ○脱炭素に向けた取組みや環境教育を取り入れた観光コンテンツの導入の検討が重要である。
⑤湯の鶴地域における各種イベント等の運営組織の見直し及び推進体制の強化	○自治会が中心となり、観光物産協会等と連携したイベントを実施し、地域にとどまらない観光客の誘客につなげている。
⑥散策ルートの検討とボランティアガイドの育成	○地域団体や市により温泉街マップを制作し、市内各地で配布している。 ○温泉街以外、例えばトレッキング等の案内パンフや表示の検討が必要である。
⑦温泉マイスターの育成、確立による地域ブランドイメージの発信	○国民保養温泉地の指定を踏まえ、泉質や効能などを整理・発信する取組の検討が必要である。
⑧温泉と食事を組み合わせた健康と癒しの滞在プログラムの実践	○国民保養温泉地の指定を踏まえたPRと商品造成等が必要である。
⑨売り込み活動の促進による湯の鶴地域の情報発信	○SNSや動画配信サイト用のPR動画を作成し、観光PRに活用している。 ○観光資源の商材写真等のアップデートを頻繁に行うとともに、動画によるプロモーションが必要である。
⑩体験・学習・交流活動等の新しいプログラムの実践	○民間事業者がトレッキング等のアクティビティ事業を実施しており、市はそのPRを支援している。 ○市内全域を回遊(行き来)するようなコースづくり、連動する施策の検討が重要である。

②「水俣市観光振興計画 湯の児育て」の成果と課題

基本方針・取組み	成果・課題
①ウェルカム湯の児整備事業	○和田岬公園及び大崎鼻公園を中心とした整備が完了し、観光客の誘客につながっている。
②湯の児エントランス整備事業	○湯の児公園、公園周辺の整備が完了し、観光客の誘客につながっている。 ○夏休みシーズンの駐車場不足への対応が課題である。
③海の遊び場整備事業	○フィッシングパーク、浮桟橋の整備が完了し、海水浴場の砂場修復工事を例年実施しており、あらゆる世代が楽しめるビーチが確保できている。 ○マリナクティビティの受け入れ体制の強化が必要である。
④憩いの場整備事業	○湯の児公園の東屋及び熊本県による護岸整備が完了し、イベント等で活用が進んでいる。 ○老朽化した看板の更新等の検討が必要である。
⑤宿泊施設整備事業	○観光事業者に対し、活用可能な国や自治体の制度利用を促すことが重要である。
⑥未利用施設の再活用事業	○空き家や空き旅館を活用した取組みが進んでいない。 ○未利用施設を活用した事業承継や創業支援のための取組みが必要である。
⑦湯の児観光交流拠点整備事業	○地域人材を活用した、湯の児地域の観光や湯の児地域の観光客に対応する交流拠点の整備を検討する。
⑧産品直売所設置事業	○上記交流拠点と併せて必要性を検討する。
⑨地域コミュニティづくり事業	○地域の事業者が主体となった場づくりやサービス向上に向けた取組を推進することが重要である。
⑩地域経営人材育成事業	○地域の事業者が主体となった場づくりやサービス向上に向けた取組を推進することが重要である。
⑪おもてなし向上事業	○地域の事業者が主体となった場づくりやサービス向上に向けた取組を推進することが重要である。
⑫ガイド育成事業	○マリナクティビティを中心とした事業者が活動しており、体験客の増加に寄与している。 ○引き続き、ガイドの育成や確保の取組を推進することが必要である。
⑬旅行商品（着地型観光商品）開発事業	○関係機関と連携したモニターツアーやモデルルートの開発を実施した。 ○引き続き、ニーズを捉えた商品開発を推進することが重要である。
⑭地域産品開発事業	○引き続き、地域特産品の掘り起こしに取り組むとともに、魅力的な商品開発を行う事業者の増加を推進することが重要である。
⑮食の開発事業	○生産者とのマッチングや商談会を実施した。 ○事業者を主体とした開発への取組みを推進するとともに、引き続き生産者とのマッチング等の実施に取り組むことが必要である。
⑯イベント創造事業	○観光物産協会等と連携した各種イベントを実施している。 ○自走可能なイベントの創造とPRを推進することが重要である。
⑰情報受発信の強化事業	○地域住民向けのツール（広報誌、HP、公式LINE）の多角化を実現した。 ○観光情報の更新頻度を上げ、利用者目線で旅行前の情報収集の質と量の増加を図ることが重要である。
⑱広域観光推進事業	○引き続き、既存組織体を活用した効果的な広域連携事業に取り組むことが重要である。
⑲交通インフラ整備事業	○新水俣駅から温泉地までの実証実験を実施するとともに、道の駅にEV用高速充電器を設置した。 ○新幹線利用者の移動手段（2次交通）の確保が課題である。
⑳受け入れ体制・組織の整備事業	○観光物産協会を主軸とした観光PRやイベント等を実施。 ○観光物産協会について、観光案内業務に留まらない事業展開を進めることが必要である。

(5)本市における観光の課題

水俣市の観光については、古い歴史を持つ湯の児・湯の鶴温泉地を中心に発達してきましたが、時間の経過や観光需要の変化とともに、施設の老朽化に加え両地域に所在する観光関連事業者数の減少傾向がみられていました。

また、2020 年(令和2年)以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による度重なる緊急事態宣言やまん延防止重点措置行動制限に伴い、インバウンド需要に加えて国内旅行も大きく減少となるなど、観光関連産業に甚大な影響を与えています。

観光を取り巻く社会情勢が変化する中、本市の現状を踏まえ、次のような観光の課題が挙げられます。

① 温泉地とエコパーク水俣を活かした観光の推進

海の温泉(湯の児温泉)、山の温泉(湯の鶴温泉)が近距離に位置するという魅力的な地域ですが、施設の老朽化や木々・雑草の繁茂がみられます。また、スポーツ施設が集積し、バラ園を有するエコパーク水俣への集客のため、より認知度向上を図る必要があります。

《主な取組》

- 湯の児地区、湯の鶴地区の魅力化と連動性の向上
- エコパーク水俣を最大限に活かした人の呼び込み
- 温泉街や商店街の魅力ある街並みの維持形成

② ターゲットを明確にしたプロモーションの実施

本市には、魅力的な観光資源が多くあるものの、発信力や方法が十分でないため、観光客目線で整理・更新された情報が不足しています。目的地となるための「旅マエ」の情報、満足度を高めるための「旅ナカ」の情報、リピートしてもらうための「旅アト」の情報など、ターゲットやタイミングに応じた情報を発信することが重要です。

《主な取組》

- 旅行前の事前リサーチに応える情報提供
 - 既存観光資源等の効果的な PR(市公式 HP 情報の更新、素材の蓄積)
 - 各施設独自の HP の作成
 - イベント前のメディアを活用した発信
- 商圏や属性などを絞り込んだ売込み

③ 観光消費額の増加

本市には、観光資源が多岐にわたって存在しますが、それらが、飲食や買い物、宿泊など重要な観光消費に相互につながっていません。また、消費額増加のための新商品や高付加価値商品の開発、滞在時間を延ばす教育旅行等へのアプローチも必要です。

《主な取組》

- 市内全域の回遊性の促進
- 春・秋のローズフェスタ期における観光客の飲食・宿泊業等への取り込み
- 魅力的な商品開発の推進
- 教育旅行等の経済効果を波及させる取組み

④ 環境変化に対応した持続可能な観光地づくり

従来は旅行者が多かった大型観光地や人口密集地域である都市圏を避けるなど、昨今の観光需要は、旅行者数の地域格差の減少傾向が見られます。行政だけでなく、地域住民や事業者による観光地づくりがこれまで以上に価値あるものになってきます。

そのため、これまで埋もれていた地域の強みや宝、また、SDGsの理念に基づき、本市がこれまで築き上げた環境に配慮した取組みを発信することによる新たなニーズの掘り起こしが重要です。

併せて、経営者の高齢化や人材不足に伴う観光関連事業者の事業継続に向けた取組みも喫緊の課題です。

《主な取組》

- 魅力的な観光資源の掘り起こしと磨き上げ
- 地域と連携した観光資源の維持整備
- 観光関連事業者の事業継続

第3章 水俣市観光振興計画

1 基本理念

『でかくっか水俣』 ～水俣の魅力を地域が誇り、高め合い、
発信して、水俣に出かけたくなる人を
何度も呼び込む観光を目指します～



2 本市がターゲットとする地域(商圈)等の属性

本市への来訪者数や観光消費額をこれまで以上に増やすためには、観光資源に合ったターゲット層を明確化するとともに、より魅力化した観光コンテンツを効果的にプロモーションすることが必要です。第2章で明らかになった現状を踏まえ、基本理念を踏まえた観光振興を推進するため、次の視点でのターゲットを設定し、重点的にプロモーションを行い、観光振興の取組を進めていきます。

(1) 居住地域の視点

前述のみなまた観光応援券利用者(本市宿泊者)のアンケート調査結果や REASAS(地域経済分析システム)の統計データ等から、本市の来訪者の多くは「熊本県内」、「福岡県」、「鹿児島県」から来ていることが分かります。

本市は、九州新幹線「新水俣駅」や南九州西回り自動車道「水俣インターチェンジ」が立地しており、前述の地域から交通機関を利用した移動時間は1時間～2時間程度と、アクセス性に恵まれており、上記地域の市場規模が大きいことからより多くの来訪者を呼び込むことができる可能性があります。これらの状況を踏まえ、「熊本都市圏」、「福岡県」、「鹿児島県」をターゲット地域として設定します。

なお、関西圏においても、新幹線を利用することで水俣までのアクセスが約3時間ほどであるため、認知度の向上に取り組み、来訪につなげるのが重要です。

(2) 年代の視点

前述のみなまた観光応援券利用者のアンケート調査結果から地域別の年代データから、湯の児地域は60代以上の世代に特に好まれ、湯の鶴地域は30代以上のミドル世代から60代以上までの幅広い世代で好まれていることがわかります。

一方で、市街地は、40代を中心として30代から60代に集中していることから、ビジネス客を中心とした客層になっていることが推察されます。

このことから、温泉地を有する湯の児や湯の鶴地域においては、ミドル世代、シニア世代※⁴が好む傾向があり、観光振興のためのターゲットとして当該年代を設定することとします。

また、20代から30代向けの若い世代向けに認知度の向上に取り組み、来訪につな

げることも必要です。

(湯の児地域)

年代	選択項目	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代以上
	回答数	633	181	387	393	393	1310
	割合	19.2%	5.5%	11.7%	11.9%	11.9%	39.8%

(湯の鶴地域)

年代	選択項目	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代以上
	回答数	218	112	174	149	223	371
	割合	17.5%	9.0%	14.0%	11.9%	17.9%	29.7%

(市街地)

年代	選択項目	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代以上
	回答数	104	89	214	274	220	232
	割合	9.2%	7.9%	18.9%	24.1%	19.4%	20.5%

※4 ここでは、30歳～54歳をミドル世代、55歳以上をシニア世代とします。

(3) 同行者の視点

前述のみなまた観光応援券利用者のアンケート調査結果の地域ごとの調査結果から、湯の児地域における宿泊客の同行者は2人以上の割合が多く、宿泊施設のヒアリングからも「ファミリー層のリピーターが多い」傾向があり、湯の鶴地域においては2人の割合が5割以上となっています。

一方、市街地は、1人での宿泊が約5割を占めており、前述のとおりビジネス客が多く占めていることが推察できます。

このことから、湯の児地域においてはファミリー層、湯の鶴地域は夫婦やカップル、親子、友人などの2人旅行向けをターゲットとして設定します。

(湯の児地域)

人数	選択項目	1人	2人	3人	4人	5人	その他
	回答数	249	469	205	181	89	126
	割合	18.9%	35.6%	15.5%	13.7%	6.7%	9.6%

(湯の鶴地域)

人数	選択項目	1人	2人	3人	4人	5人	その他
	回答数	41	262	83	81	46	44
	割合	7.4%	47.0%	14.9%	14.5%	8.3%	7.9%

(市街地)

人数	選択項目	1人	2人	3人	4人	5人	その他
	回答数	425	261	112	17	7	32
	割合	49.8%	30.6%	13.1%	2.0%	0.8%	3.7%

近年の旅行の少人数化や働き方の変化等に合わせて、個人以外の企業や学校などをターゲットとすることで、さらなる誘客へとつながることが期待されます。

3 取組の方針と施策の方向性

本市の強みである優れたスポーツの拠点「エコパーク水俣」と観光の拠点「道の駅みなまた」を最大限に活用しながら、湯の児温泉や湯の鶴温泉等を含む観光資源の磨き上げと旅行者のニーズに応じた観光コンテンツの創出、さらには効果的な情報発信を進めることで、各地域における交流人口の増加と滞在時間の延長を図り、市内全体に経済効果を波及させます。

(1) 取組の方針

基本理念を実現するための取組みの方針を次のとおり設定します。

- 方針1 戦略的な観光
- 方針2 「学ぶ・留まる」を促す観光
- 方針3 リピートしたくなる観光

(2) 施策の体系図

基本理念『でかくっか水俣』

～水俣の魅力を地域が誇り、高め合い、発信して、水俣に出かけたくなる人を何度も呼び込む観光を目指します～

〈方針と基本施策〉

方針1 戦略的な観光

- 施策1 ターゲットを明確にしたプロモーションの強化
- 施策2 水俣ならではの魅力的な観光消費の促進
- 施策3 観光資源の発掘と磨き上げ
- 施策4 持続可能な担い手づくり

方針2 「学ぶ・留まる」を促す観光

- 施策1 スポーツ施設やアクティビティをフックにした誘客促進
- 施策2 回遊性の向上と滞在時間延長の推進
- 施策3 S D G s の取組を生かした観光の推進

方針3 リピートしたくなる観光

- 施策1 湯の児地域における資源を生かした観光コンテンツの創造・充実
- 施策2 湯の鶴地域における資源を生かした観光コンテンツの創造・充実
- 施策3 エコパーク水俣や市街地の資源を生かした観光コンテンツの創造・充実

(3) 施策と具体的な取組

① 方針1 戦略的な観光

施策1 ターゲットを明確にしたプロモーションの強化

旅先を選ぶ際に重要である宿泊や飲食、体験などの観光資源の情報を整理し、常に最新情報として更新、一元化することが選ばれる目的地としての第一歩であり、行政だけでなく、観光事業者においても常に新しい情報の発信が必要になります。

そのため、来訪予定者が旅行前のプランを立てやすくし、誘客を図るための「旅マエ」の情報発信をターゲットごとに強化します。

また、来訪中の満足度を高めてもらうためには、「旅ナカ」のスムーズな情報収集とともに、観光施設における来訪者への発信も魅力的な観光地として必要です。

さらに、来訪者に対する公式 SNS 登録の促進等による情報発信（例えば、季節ごとのイベント等）を行うことで再来訪につなげるとともに、来訪者自身の SNS 等の発信を促すための映えスポットの見える化など、「旅アト」のフォローについても取り組んでいきます。

＜具体的な取組＞

- パブリシティや SNS 等による情報発信の強化と HP の充実
- 「旅マエ」、「旅ナカ」、「旅アト」など段階を踏まえた情報発信やプロモーションの強化
- 交通の利便性を活かしたターゲット地域への発信
- 広域連携の推進
- 国民保養温泉地指定を活用した誘客の促進
- 地域住民に向けた情報発信

施策2 水俣ならではの魅力的な観光消費の促進

本市には、こだわりの商品を愛情こめて製造・販売している個性的な事業者が点在しており、さらには、その材料となる農産物や海産物の生産も盛んに行われています。それらに水俣らしいご当地グルメやお土産品としてのストーリー性を持たせるとともに、より魅力的なものとするための取組を進めます。

また、本市の観光大使である江口寿史氏の活躍を本市において発信することによる誘客を図ります。

＜具体的な取組み＞

- ”みなまたブランド”づくりと農水産品や加工品の販路拡大
- 歴史ある特産物「ハゼ（櫛）」の振興
- スウィーツ等『食』に特化した観光消費の促進
- 江口寿史氏の作品や人物像を背景とした誘客
- 観光関連事業者等の事業拡大や新事業展開

施策3 観光資源の発掘と磨き上げ

本市には、自然、温泉、歴史や文化など多くの地域資源がありますが、それらを効果的に活用できているとは言い難い状況です。

誘客を図るためには、改めてこの地域資源を魅力ある観光資源へと磨き上げることが必要であるため、コンテンツの見せ方や見え方、楽しみ方など多様な方面から新しい価値を掘り起こすとともに、関係機関と連携し、観光コンテンツとしての魅力向上を図ります。

＜具体的な取組み＞

- 観光関連事業者の経営強化と魅力向上
- 観光資源として誘客のある施設の維持管理
- 老朽化した看板の更新や多言語化
- 水俣市文化財保存活用地域計画の作成

施策4 持続可能な担い手づくり

持続可能な観光振興のためには、農林水産事業者や観光関連事業者が培ってきた事業資産やノウハウを次の世代に引き継ぐことが重要です。そのために、経営者の高齢化に伴う観光関連事業者の事業継続に向けた取組を進めるとともに、新規創業やチャレンジ起業に向けた支援を推進します。

加えて、本市の観光振興の支えとなる団体や観光事業者の機能強化・育成を推進します。

＜具体的な取組み＞

- 宿泊施設をはじめとした観光関連事業者の事業承継支援
- 観光振興の担い手の育成
- 創業にチャレンジしやすい環境づくり

② 方針2 「学ぶ・留まる」を促す観光

施策1 スポーツ施設やアクティビティをフックにした誘客促進

本市には、優れたスポーツ施設が集積するエコパーク水俣の他、体育施設が数多くあります。そこで、大規模なスポーツ大会をはじめとしたあらゆる競技を誘致することで、多くの選手や関係者、サポーターが来訪するため、宿泊や飲食の機会をしっかりと本市に結び付けるような取組を進めます。

また、マリンアクティビティやトレッキングといった体験型コンテンツの造成に向けた支援を行います。

＜具体的な取組み＞

- スポーツ大会の誘致
- スポーツ大会と連動した各種メニューの開発
- 湯の見地域の観光交流拠点の整備
- 湯出七滝の体験型コンテンツの造成

施策2 回遊性の向上と滞在時間延長の推進

滞在時間や観光消費を増加させるためには、市内の回遊性を高めることが重要です。その際に、本市を様々な旅の目的地として選んでもらうための取組を推進するとともに、当該来訪者に本市内の周遊を促すようなコンテンツ作りや情報発信に取り組めます。

＜具体的な取組み＞

- 温泉や既存資源を活かしたワーケーションの推進
- 江口寿史氏の作品と人物像を背景とした誘客（※再掲）
- インバウンド需要の着実な取込
- 水俣病資料館の情報発信の強化
- 歴史や文化を生かした郷土愛の醸成による観光の素地づくり
- 観光資源を生かした人間ドック受検者の誘致

施策3 SDGsの取組を生かした観光の推進

コロナ禍による旅行者の価値観の変化が後押しする形で、国内旅行者の中でもいわゆる Z 世代と呼ばれる若年層や訪日外国人等から「持続可能な観光」が選ばれる傾向にあることから、旅先での環境への配慮や学び、コミュニティ文化への参画などの取組を促進します。

＜具体的な取組み＞

- サイクルツーリズムの推進
- 多様な旅行者への配慮の促進
- 水俣病の歴史と教訓の発信と再生した水俣の海を活用した体験型環境学習の推進
- 高等教育・研究活動の推進における観光資源の活用

③ 方針3 リピートしたくなる観光

本市は、中心部から北西、八代海に臨む「湯の児温泉」、中心部から南東、山間部の湯出川沿いに立ち並ぶ「湯の鶴温泉」と、趣の異なる2つの温泉地を有しています。

湯の児地域、湯の鶴地域に加えてエコパーク水俣等の中心街を含めた地域を重点エリアとして、当該地域をより魅力的な場所とすることで、来訪者に対して何度も「水俣にまた出かけたい」気持ちを醸成することが重要です。

については、本市の観光振興を進めていくうえで、これまで示した具体的な施策とともに、地域エリアごとの特色ある地域の魅力の維持向上に取り組めます。

施策1 湯の児地域における資源を生かした観光コンテンツの創造・充実

～海の効き湯“魅力ある湯の児温泉づくり”～

湯の児温泉は、リアス海岸の入り江に位置しており、内海で波が穏やかな海水浴場が隣接することから、家族連れに人気の温泉地となっています。

近年は、マリンアクティビティも盛んに行われていることから、海洋資源や海からの景観などを中心とした誘客を軸に取組を進めていきます。

＜具体的な取組み＞

- 持続的な景観維持
- 空き店舗や空き旅館の利活用促進
- 湯の児地域の観光交流拠点の整備（※再掲）
- 海洋資源や夕陽を生かした着地型観光の推進
- 温泉の効能の調査と発信
- 二次交通網の確保と関係事業者と連携した利用促進策の検討
- 湯の児島や観月橋の整備等
- 春の観光花見船の運航や太刀魚釣りの実施
- 湯之児公園や公園周辺の整備
- フィッシングパーク及び周辺の整備
- 海水浴場等の整備
- 湯の児海岸を活用した観光スポットの造成と市道湯の児線の改良
- 県道水俣田浦線の道路整備の促進

施策2 湯の鶴地域における資源を生かした観光コンテンツの創造・充実

～山の効き湯“湯の鶴癒しのむらづくり”～

湯の鶴温泉は、湯出川の溪流を挟んで湧出する帯状の温泉郷で、かつて年季奉公という雇主の家に住み込みで勤める風習があった時代には、「湯の鶴温泉に年1回は湯治に行かせる」という条件を付ける習わしがあったほど、良質な温泉を有しています。

観光事業者と地域が一体となった取組が行われていることから、地域と連携した良質な温泉街の維持・発展と新たな観光コンテンツの造成を軸に取組を進めていきます。

＜具体的な取組み＞

- 持続的な景観維持
- 温泉の効能の調査と発信
- 空き店舗や空き旅館の利活用促進
- 湯出七滝の体験型コンテンツの造成（※再掲）
- 湯の鶴温泉保健センターほたるの湯の活用促進
- 旧湯出中学校の活用
- 鈴虫祭り等のイベントの活性化
- 二次交通網の確保と関係事業者と連携した利用促進策の検討（再掲）

施策3 エコパーク水俣や市街地の資源を生かした観光コンテンツの創造・充実

エコパーク水俣が有する道の駅みなまたやバラ園、スポーツ施設等を本市の重要な広域交流拠点施設と位置付け、関係機関と連携しながら誘客を推進します。

加えて、来訪客が市街地へ周遊することによる観光消費の増加にも取り組みます。

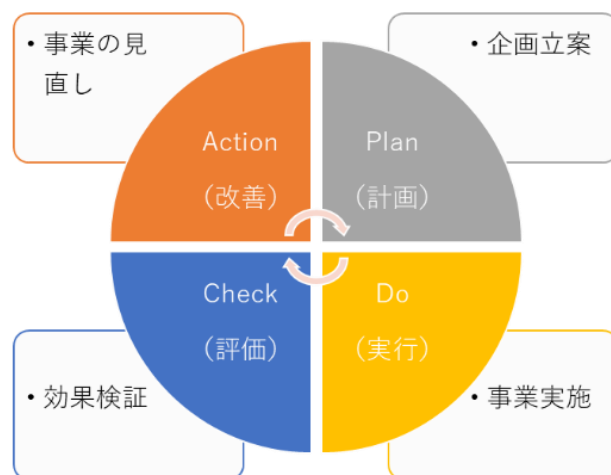
＜具体的な取り組み＞

- エコパーク水俣の広域交流の拠点化
- 道の駅みなまたの魅力の維持向上
- 水俣港の活用と水俣湾周辺の体験型観光の推進

第4章 推進体制

1 計画の進め方

本計画を着実に実現するため、各施策の実施にあたっては限られた経営資源^{※5}の中で効率的に施策を展開するため、計画(plan)、実施(do)、評価(check)、改善(action)のPDCA マネジメントサイクルにより、「水俣市観光振興計画等策定委員会」による効果検証を行い、更なる施策の充実・展開につなげていきます。



※5 観光振興のための経営資源とは、人材や財源、観光コンテンツなどを想定しています。

2 役割分担

観光振興には地域の総合力が求められるため、市と地域住民、観光関連事業者、商工団体等支援機関、周辺自治体や県との連携、民間活力の活用など互いの強みを理解し、相互に役割を補い合いながら取り組むことが必要です。

よって、それぞれの主体に期待される役割を取組ごとに示します。(資料「水俣市観光振興計画の取組一覧」参照)

第5章 数値目標

本計画に基づく計画を展開することにより、2026 年（令和8年）における目標数値を次のとおり設定します。

目標値の基準を、エコパーク水俣利用者数については 2022 年（令和4年）、それ以外についてはコロナ禍以前（2019 年（令和元年））を基準として 10%増、湯の鶴地域においては、施設規模を考慮して5%増を目指します。

1 観光入込客数

単位：人

	2019 年（令和元年）	2020 年（令和2年）	2021 年（令和3年）	2022 年（令和4年）	2026 年（令和8年）
水俣市全体	573,982	251,539	347,833	計測中	630,900
湯の児地域	77,026	29,924	45,375		84,700
湯の鶴地域	9,341	5,403	5,080		9,800
市街地	487,615	216,212	297,378		536,400

2 観光入込客数（宿泊者数）

単位：人

	2019 年（令和元年）	2020 年（令和2年）	2021 年（令和3年）	2022 年（令和4年）	2026 年（令和8年）
水俣市全体	81,173	56,089	57,071	計測中	88,900
湯の児地域	35,255	19,409	18,695		38,800
湯の鶴地域	7,202	4,746	4,390		7,500
市街地	38,716	31,934	33,986		42,600

3 エコパーク水俣利用者数

単位：人

	2019 年（令和元年）	2020 年（令和2年）	2021 年（令和3年）	2022 年（令和4年）	2026 年（令和8年）
エコパーク水俣利用者数	269,201	173,722	187,310	327,388	360,100

水俣市観光振興計画
『でかくつか水俣』

（令和5年3月策定）

水俣市 産業建設部 経済観光課